

ふ だん じ いち ごう ふん
普 段 寺 1 号 墳

なんぶちやうてらうちよなごへいやさいこ ぜんぼうこうほうふん
南部町寺内米子平野最古の前方後方墳
で、全長 22m、高さ 2.5mの小形ながら
ふくそうひん さんかくぶちしんじゆうきやう
副葬品の三角縁神獣鏡を出土している。
まいそうしせつ しょうさい
埋葬施設の詳細は不明だが、ねんどかく
粘土郭と
どきかん さんいんてき ざいちしよく
土器棺と考えられ、山陰的な在地色の強
い古墳です。どきかん けいぶ こうえん あやすぎ
土器棺は頸部と口縁に綾杉
ちよう ちゆう
紋様で飾られ、ていぶ たくしゆ ごうしがた
底部には特殊な合子形
どき ふさ
土器で塞がれていたと伝える。

みなみがわ りんせつ
南側に隣接して一辺 21m、高さ 3mの
ほうふん
方墳、2号墳があり、同様に三角縁神獣
鏡が出土している。

このことから、普段寺1号墳ほうむに葬られ
た人は、古墳時代にいち早くやまとせいけん大和政権と
つながりを持ったこの地域のごうぞく豪族と考え
られます。



さんかくぶちしんじゆうきやう
三角縁神獣鏡